

# 春惜む海景に馬佇たしめて

藤田湘子

「海景」という言葉で思い出すのは、杉本博司の「海景シリーズ」の写真。上下を二分する空と海があるだけのモノクロの写真。世界の海を切り取った静止画なのだが、じつと見ているとその静けさゆえに、太古から打ち寄せる波の音が聞こえて来そうな錯覚にさそわれる。その原点は、少年時代に見たふるさと小田原の海の水平線にあるのだという。

掲句を読んだ時「海景」という言葉に、同じ小田原で少年時代を過ごした湘子と杉本博司の共通点を見出し嬉しくなった。小田原の海で水平線を眺めながら幾度となく「海景」を心に刻んだことと思う。その汀に馬が一頭佇っている。行く春を惜しむ静かに豊かな景である。

1984年 (s59.04作) 第六句集『去来の花』 鑑賞・野本京